慶應義塾弓術部の道場ならびに命名の由来

◎現在、慶應義塾では大学ならびに一貫教育校（付属校）を通じ７ヶ所の弓道場を擁しています。
そこでは、大学生から中学生まで毎年３５０～４００人にのぼる多数の部員たちが一貫教育校弓術部・医学部弓道部のなかで、それぞれの道場で活発な部活動を行なっています。

１、中央道場「志正（しせい）弓道場」（日吉）　２、三田綱町「正己（せいき）弓道場」　３、日吉「桑蓬（そうほう）弓道場」（慶應義塾高校道場）　４、志木（しき）高校弓道場　５、「湘誠（しょうせい）弓道場」（湘南藤沢中学・高校道場）
６、普通部（中学校）弓道場　７、大学医学部弓道部弓道場（現在再建準備中）

ひとつの学校法人のなかで、これだけの数の道場を持つ組織は稀であろうと思われます。

◎この内、「志正弓道場」「正己弓道場」「桑蓬弓道場」について、命名の由来を紹介したいと思います。

１、中央道場「志正弓道場」

昭和４１年（1966）、それまで５０年間にわたり使用していた東京都港区三田綱町道場の取り壊しに伴い新築移転した、横浜市港北区日吉の慶應義塾キャンパス内蝮谷（まむしだに）の新築弓道場。
その竣工に当り、当時の三田弓友会会長だった小山高茂（大正１５年卒）は『禮記射義（らいきしゃぎ）』の中にある「射は進退周還（しんたいしゅうせん）必ず禮（れい）に中り、内心正（うちこころざし）しく外體直（そとたいなお）くして」から採用し、「志正弓道場」と命名されました。
『禮記射義』とは、周から漢の時代にかけて儒学者がまとめた「礼」に関する書物を戴聖が編纂した全４９篇の書が「禮記」であり、そのなかの４６編目が射義編となります。

２、三田綱町「正己弓道場」

平成５年（1993）、再び港区三田綱町の慶應義塾グランド内に新築弓道場が成ったとき、当時の藤澤益夫弓術部長（慶應義塾大学商学部教授）は、同じく『禮記射義』の「射は仁の道なり、射は正しきを己に求む」から『正己弓道場』を道場名とされました。

３、、日吉蝮谷（まむしだに）「桑蓬弓道場」（慶應義塾高校道場）

昭和６２年（1987）、慶應義塾高等学校が使用している日吉蝮谷の道場改修工事竣工に際し、当時の藤澤益男弓術部部長は、志正弓道場の命名の出典と同じ『禮記』の中に、少年から青年へ通過する儀式に「桑の弓に蓬（よもぎ）の矢をつがえて四方に射って魔除けをする」とあることから、若者の成長を願うという思いを込めて「桑蓬弓道場」と命名されました。

４、道場命名の発端としての小泉信三先生からの示唆

「志正弓道場」新築工事中の昭和４１年（1966）３月、ご自宅を訪れた弓術部員に対し小泉信三先生（昭和８年～２１年慶應義塾塾長、東宮御教育常時参与として皇太子明仁親王＝平成天皇の教育

責任者を務めた）が示された「論語（孔子）」の一句があった。

『子曰、君子無所争、必也射呼、揖譲而升下、而飲其争也君子（子ノタマワク君子ハ争フトコロナシ。必ズヤ射カ。揖譲シテ升リ下リテ飲ム。ソノ争ヒヤ君子ナリ。）』

「志正弓道場」の命名に際しては、小泉信三先生から示された「論語」における弓の道の教えを受け、小山高茂三田弓友会会長が「禮記射義」より“正射必中の教え”として『志正』をとり道場名としました。

後に、三田綱町道場が成ったとき藤澤益夫弓術部長は、同じく禮記射義から『正己』を選び道場名としました。

小泉信三先生のご示唆からの所以が２つの「道場名」の命名に反映され、今日までの礼を重んじ、正射必中の教えを伝え続ける『慶應弓術の志』として受け継がれています。

正己弓道場

志正弓道場

桑蓬弓道場